

会議録（要点録）

会 議 名	第13回 第3次八王子市教育振興基本計画策定検討会	
日 時	令和2年（2020年）2月19日（水）午後7時00分～8時30分	
場 所	市役所8階 802会議室	
出席者氏名	参加者	◎和田孝、○高橋洋、香取武雄、関口眞吾、中原教智、新庄良輔、真喜志尚子、石渡ひかる、野牧宏治 ◎：座長 ○：副座長
	教育委員会事務局職員	設樂恵 学校教育部長、斉藤郁央 学校教育指導担当部長、小山等 生涯学習スポーツ部長、佐藤宏 図書館部長、橋本盛重 学校教育政策課長、上野和広 学校教育統括指導主事、安達和之 生涯学習政策課長、高野芳崇 中央図書館長、
	事務局	三枝信博 学校教育政策課主査、久保田雅崇 学校教育政策課主事 上島加奈子 学校教育政策課主事
欠席者	野村洋介 学校教育統括指導主事	
次 第	1 開会 2 議題 第3次八王子市教育振興基本計画（案）について 3 その他 4 閉会	
公開・非公開の別	公開	
傍聴人数	なし	
配付資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・第12回 第3次八王子市教育振興基本計画策定検討会会議録 ・次第 ・資料1 第3次八王子市教育振興基本計画（案） ・資料2 第3次八王子市教育振興基本計画（素案）からの修正箇所一覧 	

	会議の内容
座長	<p>1 開会</p> <p>平成から令和にわたって、年代を超えて検討会を続けてきた。いよいよ今回が最後の会議となる。会議の最後には、検討会の参加者一人ひとりから、策定に携わって何か感じたことを一言ずつ願います。</p> <p>では、次第に従って進行する。議題について事務局から説明を。</p>
事務局	<p>2 議題</p> <p>資料1及び2について説明。</p>
座長	<p>事務局からの説明に対する疑問点、不明点があればうかがいたい。</p> <p>(質問・意見等なし)</p> <p>では、細かい文言等の修正があれば事務局に一任する。</p> <p>事務局におかれては、写真やグラフなどを挿入していただき、原稿の完成をお願いしたい。</p>
座長	<p>3 その他</p> <p>検討会に参加して感じたこと、教育委員会事務局に期待することなど、参加者の皆さんから一言ずついただきたい。</p>
参加者 (香取)	<p>計画の策定に参加して、自分が発言したことや考えたことが冊子として完成するのは、素晴らしいことであると再確認できて、日々の仕事の励みになっている。同時に、漠然としていた今後の教育課題が明確になった。計画の策定に参加した経験を活かしていきたい。</p>
参加者 (関口)	<p>冊子に図や写真が入り、見やすいものとなった。</p> <p>私は地域の子どもたちと関わって30年経つが、教育について体系的に考えた機会は初めてであり、様々な視点から考えることができた。教育にベストはないと思っており、これで完成していいのかという思いはある。5年ごとに計画の見直しを行っているとのことだが、そういった見直しを積み重ねてより良いものにしていきたい。また、計画の策定に参加させてもらったことに感謝したい。</p>
参加者 (中原)	<p>検討会に参加することで、学校長と教育関係・行政関係について教えを受けたり、意見を言い合えたりできたことは貴重な財産だ。今後もこのような形で、地域と携わっていきたい。</p>
参加者 (野牧)	<p>私は、平成23年(2011年)に開催されたゆめおり市民会議で、八王子ビジョン2022の原型となる素案作りに携わった。教育学習分科会に所属して延べ40回以上、会議を開いた。その時に感じたこととして、意見を言いつ放しにするのではなく、10年間担い手として関わっていき、メンバーと申し合わせた。そして今回のように5か年や3か年のプランにブレイクダウンしていくときに、しっかりと当初の思いが落とし込めるように関与していくことが必要だと考えていた。第3次八王子市教育振興基本計画の策定においても、先の分科会で地域の大人として学校現場に入り込んで支援にあたっている人も多いので、そのような人から意見を集約して、代表して会議に臨んだ。いじめ対策や働き方改革など、発言した内容が盛り込まれたという実感である。</p> <p>今後は担い手として、市民の立場から地域・行政と協力して施策の実現を目指していきたい。一人ひとりが地元に関心を持って地域の課題に取り組んでいくことが、</p>

	<p>子どもたちにいい大人の背中を見せることになり、それがいい教育になるのではないだろうか。</p>
<p>参加者 (石渡)</p>	<p>一般公募枠として参加させていただき、私にとって勉強になることが多かった。地域でボランティアを長年続けていて、市民の感覚に近いという立場から参加した。発言したことが文章になり、市民に還元されるということが貴重な経験だった。</p>
<p>参加者 (真喜志)</p>	<p>私はPTA役員という立場から、保護者の代表として参加させていただいた。行政の方には子どもたちのためにいろいろと考えてくださり、大変感謝している。 最後に一つお願いがある。学校現場で本当に困っていることを現場で実際に見に行き、実感してほしい。また、安心・安全に自分たちの居場所がある学校をつくるということは難しいので、それを心にとめていただいて、より良い教育を実現してほしい。</p>
<p>参加者 (新庄)</p>	<p>教育に対して自分で考えたことが、形にできるということは素晴らしいと思う。 また、現場の声をもっと計画に反映していく必要があったのではないかと。PTAの会議などで「こういった意見をぶつけてみてよ」といった声が上がらなかったため、計画を策定しているということを教育に関わる人に周知することも必要でもある。策定後の経過観察が必要である。</p>
<p>参加者 (高橋)</p>	<p>小学校の校長や副校長に、市が今後5年間にわたってどのような施策があるのか伝えていくのがこれからの私の役割であると思う。計画が完成したというだけでなく、これを具体化していくことが必要。PTAや学運協の役員に周知して、施策を実行していかなければならない。 5年後の目標として設定した指標を達成できるように、学校や行政などそれぞれが頑張らなければならない。それぞれの立場で知恵を絞ってアクションを起こすことが大事である。本計画の完成により、八王子の教育の今後の骨格ができた。これを受けて、しっかりと教育を行う必要がある。 今後10年で労働人口が500万人減少すると言われている。ということは、これから毎年50万人ずつ社会を支える人が減っていくことになる。これからの社会の担い手となる子どもたちが、個性や能力を活かして社会に関わろうとする気持ちをいかに育てるかが学校や家庭の役割だと思う。それをやらないと日本は衰退してしまうという危機感を抱いている。人間関係をうまく構築できない子どもたちも併せて、社会に関わることでよくなったと、子どものうちから経験させたい。自尊心が高い子どもが社会貢献しようとするだろう。小・中学校が一体となって社会を担える人材を育成したい。個人的には施策14の「社会で活躍できる多様な力を育成する教育の推進」という言葉が気に入っている。社会で活躍する子どもたちをいかに育てるかが大人の責務である。この言葉を自分の肝に銘じていきたい。</p>
<p>参加者 (和田)</p>	<p>学識経験者として、国の動向であるとか、これからの教育をどうするかという視点から会議に臨み、様々な議論ができた。教育振興基本計画の策定の視点は2つあると考えている。1つは、学校教育の問題の解決に向けた現在の取り組みを改善や充実させるということ。もう1つは、現在から未来に向けて、これからどういう教育が必要なのか、どういう子どもたちになってほしいのかを提案するということがある。 1つ目の視点から、子どもたちの学力向上といじめの防止については緊急課題として推進してもらいたい。学力向上といじめの防止は切り離すことができない関係にある。学習への興味関心や授業が分かるということへの安心感が、思いやりや自尊心を育む基盤となっている。その目標値として掲げられている中学3年生の習得目標値未達の生徒数の減少に努めてもらいたい。併せて「いじめはどんな理由があ</p>

ってもいけないこと」ということを、道徳の授業だけでなく、普段の生活の中でも確認できるようにしてもらいたい。学校と家庭と地域が一緒になって、学力向上といじめの防止をはちおうじの教育の大きな目標として取り組んでもらいたい。

次に、読書とスポーツ、レクリエーションを市民が活用できるような条件整備に努めてもらいたい。健康寿命が延びてきている中で生きがいや仲間づくりを支えるために、情報提供や施設の改善、コーディネーターの配置や相談窓口の充実などを図る必要がある。指標として注目しているのは「生涯学習をしている市民の割合」や「図書館の実利用者率」、「18歳以上の週1回以上のスポーツ実施率」であり、1つのバロメーターとしたい。ぜひ、スムーズな利用環境となるようにしてほしい。

2つ目の視点から申し上げたいのは、英語でのコミュニケーション力やICTの活用する力などが子どもたちの資質能力として求められているが、これは、これからの日本人に必要な資質である。大学や企業、外国人などと協力体制を構築して、強みを持った子どもたち、つまり、英語が話せたり、ICTが活用できたり、環境問題に対し解決策を提案できる子どもたちを育ててもらいたい。

また、学校部活動を視野に入れた総合型のスポーツクラブの取組を向上してもらいたい。八王子市はもともとスポーツが盛んであるが、部活動と関連させながら、発展していく必要がある。今年はオリンピック・パラリンピック競技大会が行われることから、この機会を逃さずアクションを起こし、これからスポーツに親しむ市民のために、オリンピック・パラリンピックのレガシーを残してほしい。

座長

会議の運営という観点から申し上げますと、計画の策定に携わる学識経験者が一人では心もとない。例えば特別支援教育やスポーツ、学校施設整備など、それぞれの分野に詳しい学識経験者が加わってもよかったのではないだろうか。

最後となるが、委員の方々にとって、検討会の前に資料を読み込み、準備をするということに長い時間を要したと思う。発言する時間が短く、自分の思いを十分に述べることができなかつたかもしれないが、ある意味でご自身の考えを持つ良い機会になったと思う。

そして、事務局からは毎回丁寧な説明をしていただいた。また、議事録が良くできていると思う。委員からの意見をしっかりと整理して、計画案という形でまとめていただいた。

第3次八王子市教育振興基本計画はこれから具体化していくフェーズになる。市民の皆さんの教育や学習に活かし、子どもたちが学校や地域での学びにつながるものとしていってほしい。

事務局
(橋本)

今後の予定としては、計画案を3月14日に開催する教育定例会に議案として上程し最終決定となる。教育委員の思いを加えて、最終的な計画として取りまとめる。教育定例会では検討会でいただいた意見をしっかりとお伝えする。

事務局
(設楽)

平成30年(2018年)12月から、計13回の検討会に参加していただき感謝申し上げます。子どもたちにとっては1日1日が大切であるという認識のもと、策定に携わっていただいた。

検討会のたびに、事務局から送付した膨大な資料を読み込んでいただいて、座長と副座長の進行のもと、有意義な会議となった。

直近でいえば、台風19号や新型コロナウイルス感染症などが起きたが、想定外のことが起こり、今後10年の間にも何が起こるかわからない。その中で、確実なのは、人口の減少による少子高齢化や核家族化が進展するということである。家庭や地域とのつながりが希薄化する一方で、AIやIoTやロボットなどの急速な技術革新によるSociety 5.0の社会が到来し、便利ではあるが、人と直に関わることなく生活できてしまう。子どもたちには、学校という集団生活だからこそ学べる人と人との関わり方を養い、社会で活躍できる大人となってほしい。義務教育期間に

座長	<p>子どもたちの自尊感情を養うことが教育委員会の役割である。本検討会を通して、子どもたちが自分のみちを自信をもってあゆむ力を育むためには、それぞれの立場で日頃から子どもたちと接している方々のお力添えがあつてのことと改めて認識した。社会全体で子どもたちを支える仕組みを教育委員会が構築しなければならない。</p> <p>策定後はいかに計画を学校現場や地域に周知し、どう具現化するか考えること、そしてまた、現場の声を聴いて常にブラッシュアップしていくことが重要となる。今後もお力添えをいただきたい。</p> <p>4 閉会</p> <p>以上をもって、第13回第3次八王子市教育振興基本計画策定検討会を終了する。</p>
----	--